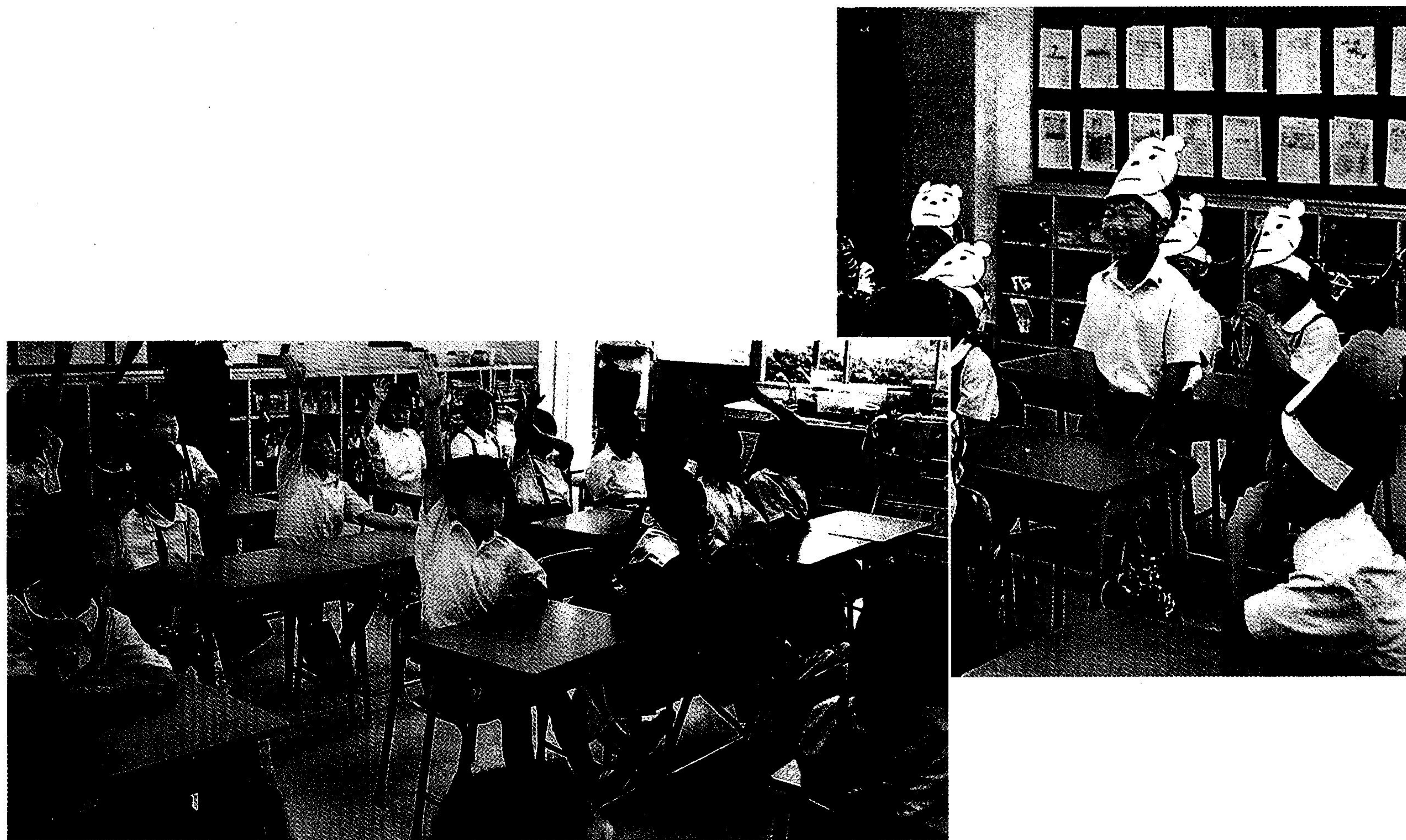


# 「道徳」の研究

捧 信之



## 🔑 キーワード

他者理解 第三者の立場 バランスのよい価値観

## 📌 主張

本研究は、仲間とともにによりよく生きるための、他者理解に支えられたバランスのよい価値観を創りあげることを目指した。

仲間とともにによりよく生きていくためには、一方的な価値観に偏るのではなく、相手の立場や気持ちを理解したバランスのよい価値観をもつことが大切である。

従来、信頼・友情等「主として他の人とのかかわりに関する内容」を取り上げた「道徳」は、当事者の立場になり、当事者の心情を理解することに重きが置かれていた。しかし、それぞれの当事者の心情を理解することにとどまり、双方の立場を理解しながら問題を解決していくことには必ずしもつながっていなかった。そこで、第三者の立場に立ち双方が納得できるような解決策を考えていくことで、バランスのよい価値観を創りあげることができると考えた。



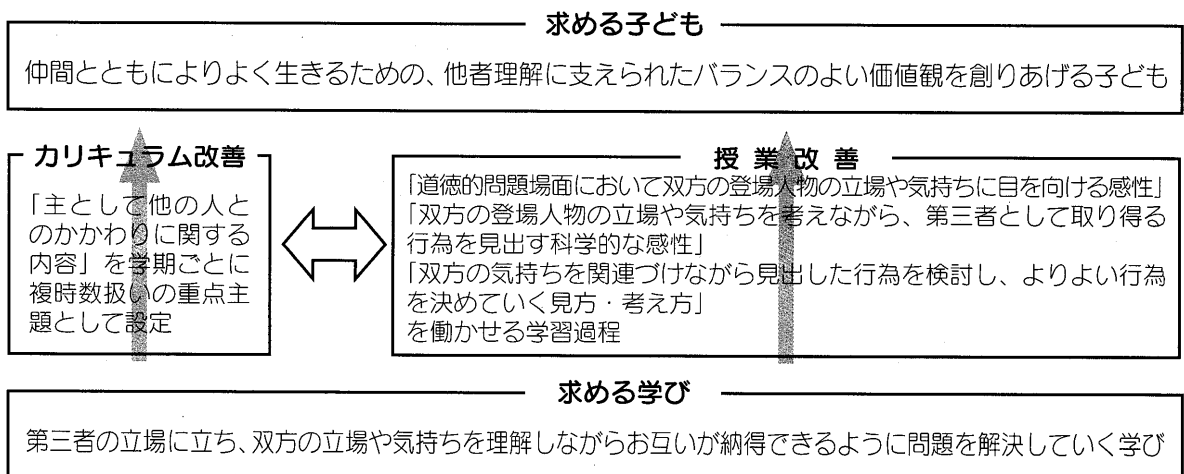
# 仲間とともにによりよく生きるための、他者理解に 支えられたバランスのよい価値観を創りあげる「道徳」

## 1. 「道徳」で求める子ども

研究主題「創造的な知性を培う」のもと、「道徳」で求める子ども像を「仲間とともにによりよく生きるための、他者理解に支えられたバランスのよい価値観を創りあげる子ども」と設定した。

今、社会の現状として「人と人との絆が弱くなっている。仲間とのかかわりが弱くなっている。」という指摘がなされている。当校の子どもたちもかかわりが薄かったり、仲間同士のトラブルを自分たちで解決していこうという姿勢が弱かったりする。このような社会の現状や当校の実態を受け、上記の子ども像を設定し、研究を進めることとした。

従来、信頼・友情等、「主として他の人とのかかわりに関する内容」を取り上げた「道徳」は、当事者の立場になり、当事者の心情を理解することに重きが置かれていた。当事者の心情に寄り添うことは大切なことであるが、そこに生じている問題を解決することには必ずしもつながっていなかった面がある。そこで、本研究では、日常の中に見られる仲間同士のトラブルという問題場面において第三者の立場に自分を重ね、当事者になっている複数の登場人物の立場や気持ちを考えながらお互いが納得できるような解決策を考えていく。そのことにより、双方の立場や気持ちを理解したバランスのよい価値観を創りあげることを目指した。



## 2. 仲間とともにによりよく生きるための、他者理解に支えられたバランスのよい価値観を創りあげるカリキュラム改善の視点

人と人との絆が弱くなりつつある社会や当校の実態を踏まえ、また、「道徳」がすべての学習や生活の基盤としての人間関係をよりよいものにしていくための要となる時間として、人とのかかわりを重視し、各学期に「主として他の人とのかかわりに関する内容」を複時数扱いの重点主題として設定していく。

低学年では、身近な友達のトラブルについて、第三者の立場に立ち双方の気持ちを思いやりながら、お互いに仲よく活動したり理解し合い助け合ったりしながら解決していく場面を繰り返し取り上げる。

中学年では、仲間や学級のトラブルについて、第三者の立場に立ち双方の立場や気持ちを理解しながら、互いに理解し合い、信頼し合い、助け合っていきながら解決していく場面を繰り返し取り上げる。

高学年では、仲間や学級のトラブルについて、第三者の立場に立ち複数の立場や気持ちを理解しながら、相互に信頼し合い、学び合い、男女協力しながら友情を高め、解決していく場面を繰り返し取り上げる。

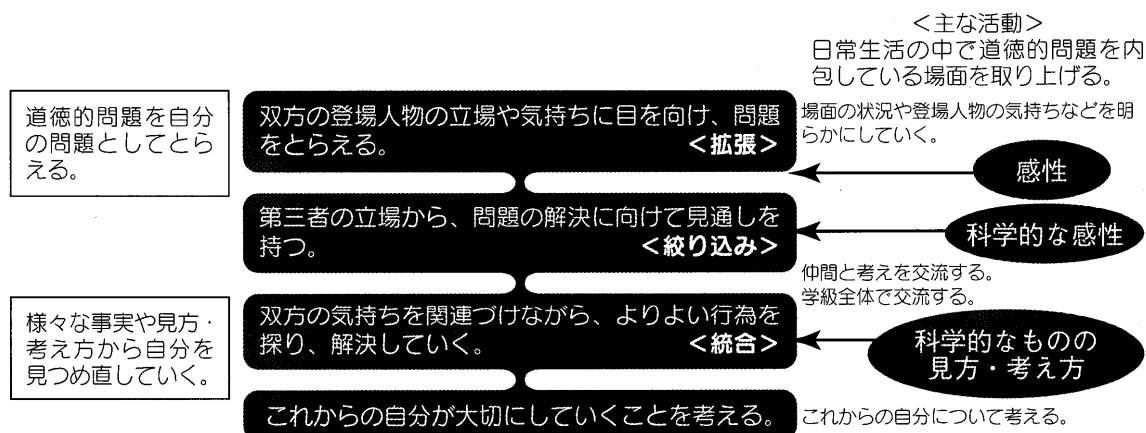
### 3 仲間とともによりよく生きるための、他者理解に支えられたバランスのよい価値観を創りあげる授業改善の方策

#### (1) 「道徳」ではぐくむ「感性、科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」

「道徳」ではぐくむ感性	道徳的問題場面において双方の登場人物の立場や気持ちに目を向ける力
「道徳」ではぐくむ科学的な感性	双方の登場人物の立場や気持ちを考えながら、第三者として取り得る行為を見出す力
「道徳」ではぐくむ科学的なものの見方・考え方	双方の気持ちを関連づけながら見出した行為を検討し、よりよい行為を決めていく力

#### (2) 「感性、科学的な感性、科学的なものの見方・考え方」を働かせた学び

##### ① 学習過程



##### ② 大切にしたい働きかけ

- ア 日常生活の中であり得そうな問題場面を視覚や聴覚に訴えながら提示することで、生活経験を想起したり、イメージを持ったりしながら考えられるようにする。
- イ 場面の状況や双方の登場人物の気持ちなどに目を向けていくために、また、お互いが納得できるように問題を解決するために、双方の立場や気持ちを考える第三者の立場として役割演技を行っていく。

### 4. 「道徳」の評価方法について

「道徳」では、「～が分かったか」「～が理解できたか」などの認知的な評価や、「～ができたか」「～が身に付いたか」などのような行為の変化を見取る評価は馴染みにくい場合が多い。

そこで、本研究と照らし合わせて、関心・意欲、科学的な感性、思考・判断（科学的なものの見方・考え方）について評価を行う。評価方法としては、学習の終末に自分の成長を振り返る「心の成長作文」を書いていくことを取り入れる。低学年においては、子どもの発言、表情、記述などから見取っていくこととする。

## Ⅱ 実践の概要

### 第1学年

### 「なかなかおり」

### 主な内容項目2(3) 信頼・友情

#### 1. 第三者の立場に立って、双方の気持ちを考え、お互いが納得できるような解決策を考えていながら、バランスのよい価値観を創りあげる学び

本主題では、日常生活の中にも見られる虫捕りのための網の取り合いになってしまう道徳的問題場面を取り上げる。従来の「道徳」なら、取り合いになった当事者の立場や気持ちを理解していくことに重点がおかれるだろう。しかし、それだけでは仲よくしていくための解決策は出てこない。そこで、本主題ではそこに居合わせた第三者のくまおの立場として、取り合いになってしまったとらおとうさこ双方の立場や気持ちに目を向けていく。そして「二人を仲よくさせるために何と云えばよいのか」という、くまおの行為を考えていく。「うさこの気持ちを思いやったらおへの言葉がけ、とらおの気持ちを思いやったらうさこへの言葉がけ」をしながら、お互いが納得できるような解決策を考えていくことで、双方の気持ちを大切にしたバランスのよい価値観を創りあげることができると考えた。

#### 2. 主題の構想

##### (1) 主題の目標

虫捕りに行って網の取り合いになってしまった場面での登場人物の行為や気持ちを明らかにしたり、よりよい行為を考えたりする中で、友達と仲よくしていくためには、双方の気持ちを考えてよりよい行為を決めていくことが大切であることに気づき、これからも相手の気持ちを考えながら友達と仲よくしていこうと意欲を高めることができる。

##### (2) 追求の構想（2時間）

#### みんなと仲よくしている経験について話そう

鉄棒したりして仲よくしているよ。 みんなとポケモンごっこをして仲よくしているよ。

#### 道徳的問題場面の提示

とらおさんとうさこさんとくまおさんは、とても仲良しです。今日も一緒に虫捕りに出かけました。チョウが飛んでいたの、とらおさんが網を持って追いかけてました。もう少しで捕まえられるようになるのですが、なかなかつかまりません。とらおさんがいつまでも網を持っているので、うさこさんが「わたしにもかして」と言いましたが、とらおさんは「もう少し、もう少し」と言ってなかなか貸してくれません。そのうちに、うさこさんは待ちきれなくなり「とらおさん早く網を貸してよ」と言って網を取ろうとしました。「なにするんだよ。今捕まえられるそうだったのに!」「早く貸してよ!」2人はとうとう網の引っ張り合いになってしまいました。それを見ていたくまおさんは困ってしまいました。

#### くまおさんになって、うさこさんやとらおさんの気持ちを考えよう。

とらお「せっかく捕まえられるそうだったのに何するんだよ」 うさこ「私だってやりたいの。早く貸して。」等

◎二人を仲よくさせるために、くまおさんは二人に何と云えばよいのだろう？

#### 役割演技で確かめていこう

「とらおさん、うさこさんがかわいそうだからちょっと網を貸してあげれば。」 「うさこさんもうやり取らないで順番に使おうって言えば。」等

#### 友達と仲よくしていくために、自分はどうしていけばよいのだろう。

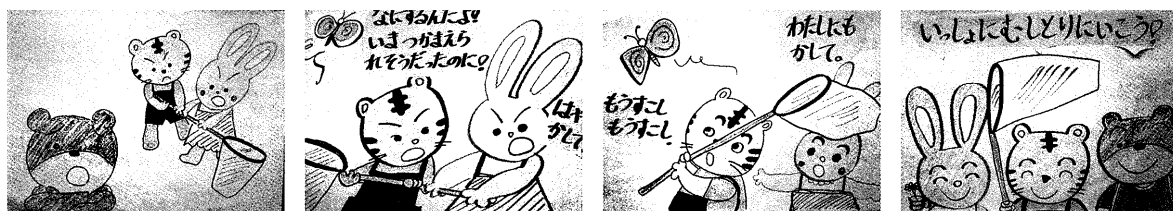
自分も相手の気持ちを考えて仲よくしていきたい。 喧嘩してる人がいたら相手のことを考えて仲よくするよう言いたい。

### 3. 授業の実際

(1) どうして取り合いになったのかな？くまおさんの立場になって二人の気持ちを考えよう。

明子さんは、何事にも前向きに取り組むよさを持っている。人の話を素直に聞き入れ、良いことや悪いことの判断をしっかりとしていく。そして、「悪いことはだめ。」とはっきりと考えてくる。ただ、現象面だけで判断しがちでその奥にある気持ちを理解しようとする面ではまだ弱さがある。そこで、トラブルがあったときのそれぞれの立場や気持ちを理解していくこと、さらには、その理解をもとに相手を思いやりながらお互いが納得できるようなよりよい解決策を考えていってほしいと願った。

1時間目は、最初に友達と仲よくしている経験を話してもらった後、虫捕りに行って網の取り合いになってしまう紙芝居を提示した。

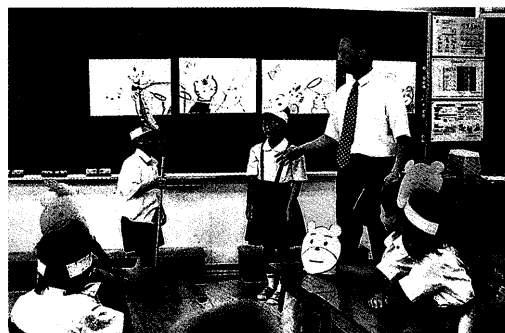


<紙芝居（自作資料）>

紙芝居を視聴した後、明子さんは、「うさこさんは網を貸してもらえなくてかわいそう。」と感想を述べていた。浩太さんが「一緒に使えばよかったのに、貸してくれなくて喧嘩になった。」と喧嘩になった理由を述べてきたことを受けて、役割演技をしながら「どうして喧嘩になったのか。」を確かめていくことにした。

明子さんはくまおになって役割演技をし、「うさこさんも網を使いたかったと思う。とらおさんも蝶がせっかく捕れそうだったのに、じゃまされて怒っている。」と二人の状況や気持ちに目を向けてきた。感性「双方の登場人物の立場や気持ちに目を向ける力」を働かせ、とらおさんとうさこさんの立場やそれぞれの気持ちをとらえ、視点を拡張させてきた姿である。

そこで、「それを見ているくまおさんはどう思っているのだろうか」と働きかけた。陽子さんの「くまおさんは困っていると思う。」に続けて明子さんは「二人は順番に使えばいいのに、と思っている。」と発言した。双方の立場や気持ちに目を向け、「どうしたら仲良くできるか？」について自分の考えを持ち始めてきた状況である。そこで「二人を仲よくさせるために、くまおさんはなんと伝えようだろうか。」について考える場を設定した。



<役割演技をしながら状況や気持ちを確かめていく子どもたち>



<二人の気持ちについて発言する明子さん>

(2) 二人を仲よくさせるためには、くまおさんは何と言えよいのだろう。

明子さんは、プリントに次のように記述した。

◎ふたりをなかよくさせるために、くまおさんは、ふたりになんといえよいのだろう？

とらおさんに

あみは、とらおさんのものじゃないんだからみんなにかしてあげるんだよ。

うさこさんに

とらおさんにちょうちょとれそうだったのにじゃましてごめんねっていったらとらおさんがあみかしてくれるかもよ。

＜明子さんのプリント記述＞

くまおになってとらおとうさこへの言葉がけを考えたプリント記述から、科学的な感性「双方の登場人物の立場や気持ちを考えながら、第三者として取り得る行為を見出す力」を働かせ、「とらおさんにはみんなに貸してあげるように言う、うさこさんにはじゃましたことをあやまるように言う」というふうに、くまおの行為について自分の考えを絞り込んでいった姿が読み取れる。

2時間目。明子さんは、自分の考えを発表したいと待ち構えていたかのように、真っ先に挙手した。発表の中で明子さんは「網はとらおさんのものじゃないんだからうさこさんに貸してあげるんだよ。うさこさん、勝手に取ると網を貸してくれないかもよ。」と発言した。その他、「けんかはやめようよ。何で順番に使わなかったの。うさこさんはまだ1度も使っていないから貸してあげて。うさこさんも無理矢理とらない方がいいかも。ごめんねって言えば。」等、様々な意見が出てきて、どうしたら本当にうまくいくのか確かめてみたい状況が生まれてきた。そこで、本当にうまくいくかどうか子どもたちはくまおになり、教師がうさこととらお役をやって役割演技をしながら確かめていく活動を組織した。

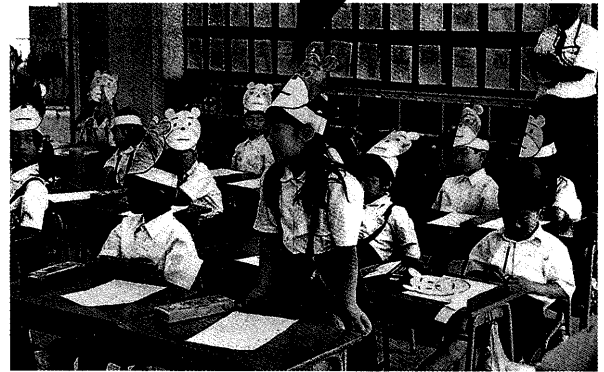
(3) 二人の気持ちを考えながらよりよい方法を考えよう。

役割演技の中で、明子さんはまず「とらおさん、網をいっぱい使ったんだからそろそろ網を貸してあげてね。」と言ってきた。とらお役の教師が「だって、ぼくまだ蝶を捕ってないんだもの。」と言うと、「じゃあ、うさこさんに捕ってもらえばいいじゃない。」と言ってきた。「でも、ぼくが捕りたいんだけどな。」と教師が続けると、明子さんは言葉に詰まる。「うさこさんに捕ってもらえばっていうのは、うさこさんのことを思って言っているの。」と教師が尋ねると「うん、



＜発表したい。真っ先に挙手する明子さん＞

あみはとらおさんの  
ものじゃないんだからうさこさんに  
かしてあげなよ



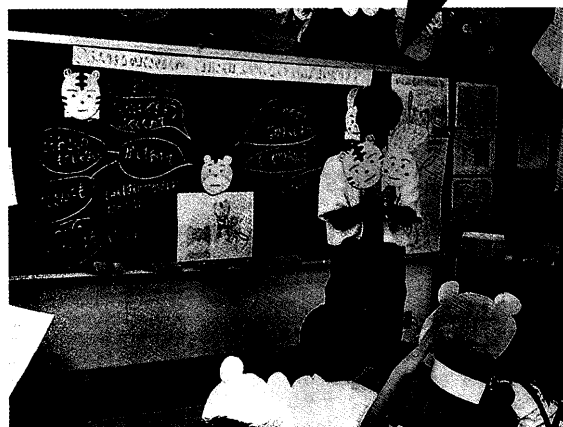
＜発言する明子さん＞

網を使えなくてかわいそうだから。」と言ってきた。うさこの気持ちを考えたとらおへの言葉がけを考えてきた明子さんである。また、うさこに対しては、「うさこさんはとらおさんに一緒に使おうって言えばいいと思うよ。」と言ってきた。「それはとらおさんのことを思っているの?」と尋ねると「うん」と大きくうなずいていた。とらおのことを考えたうさこへの言葉がけをしてきた明子さんである。

とらおさん、網をいっぱい使ったんだからそろそろ網を貸してあげてね。



だって、ぼくまだ蝶をとってないんだもの。



＜くまおになってうさこととらおへ言葉がけする明子さん＞

このように明子さんは、うさこととらおの気持ちを関連づけた言葉がけを、役割演技を通して、再度、考え直して言うことができた。科学的なものの見方・考え方「双方の気持ちを関連づけながら見出した行為を検討し、よりよい行為を決めていく力」を働かせ、相手の気持ちを思いやった解決策を考えている姿が読み取れる。第三者の立場に立つことで双方の立場や気持ちを理解し一人一人への解決策を出していくことができたのである。しかし、それぞれへの解決策を出していくことはできたが、どちらも納得できるような解決策を示すまでには至らなかった。

#### (4) 生活の中で、声をかけていこう。

この学習を終えた数日後、集めたノートを配ってくれるよう、子どもたちをお願いしたところ、2人の子が配るノートの取り合いを始めた。そのとき、明子さんは、「取り合っちゃだめだよ。譲り合うんだよ。」と声をかけていた。この言葉がけをきっかけに2人は取り合いをやめ、互いに分けてノートを配った。このように、日常生活の中で、自分が第三者の立場のときに、お互いに仲よくしていこうと声をかけていく姿を見せてくれている。

この学習全体を通して、また、日常生活の姿を通して、第三者の立場に立ちながら、双方の気持ちを思いやっていこうとする姿がよく見られた。他者理解に支えられたバランスのよい価値観を高めてきた明子さんの姿がうかがえる。

### Ⅲ 成果と課題

#### 成 果

第三者の立場として問題を解決しようとしていくことで、双方の登場人物の立場や気持ちをとらえながら解決策を出していくことができた

くまおの立場に立ち、「二人を仲よくさせるためには、何と云えばよいだろう」について考えていくことで、うさこの気持ちを考えたとらおへの言葉がけ、とらおの気持ちを考えたうさこへの言葉がけを考えていくことができた。それぞれ相手の気持ちを思いやった解決策を考えていくことができたと評価する。

#### 課題 1

問題を解決する方法を考えると、双方の立場や気持ちをどう関連づけてお互いが納得できるような解決策を生み出していくか。

双方の登場人物の立場や気持ちをとらえながら解決策を出していくことはできた。しかし、どちらも納得できるような解決策を示すまでには至らなかった。「二人を仲よくさせるためには、何と云えばよいのか」について考えた際、とらおへ、うさこへと一人一人分けて考えさせた。これは、それぞれに対して何を云えばよいかは考えられるが、お互いが納得できる解決策を示すことはできない。二人に対して何と云えばよいのか、分離せずに丸ごと考えていくことでどちらも納得できるような解決策を見出していくことが可能となる。そのための追求問題はどうかあればよいかを検討していくことが必要である。

#### 課題 2

役割演技等の活動を学習過程の中にどう位置付け、それを子どもたち自身がどう意味づけていくか。

道徳的問題場面の状況と双方の立場や気持ちに目を向けていくときと、問題を解決していくときに双方の立場や気持ちを関連づけてよりよい方法を考えていくときの2カ所に役割演技を取り入れた。しかし、役割演技がどの程度、有効に働いているかについては疑問が残る。そこで、以下の点について改善を図っていく。

- (1) 役割演技を通して明らかにしなければならない状況をつくる。

そのために・双方の立場や気持ちの何が分からないのか、何を知りたいのかははっきりさせる。

・解決していく道筋を具体的にイメージし演技していく。

- (2) 上記の改善を図ることで役割演技の良さや意味を子供たち自身が自覚していくようにする。

#### <主な参考文献>

押谷 由夫 2000「新しい道徳教育の理念と方法」東洋館出版社

新宮 弘識 1997「子どもの可能性に立つ道徳教育」国土社

永田 繁雄／服部 敬一 2004「研究授業 小学校道徳 低学年」明治図書